

インターンシップについて

【インターンシップの目的】

インターンシップを行う目的は、次の6つのステップです。

- STEP 1 世の中の仕事を体験することにより、よりよく理解することです。
- STEP 2 学校で習得した知識・技術を就労の場で実践し、プロと一緒に仕事をし、プロから客観的な評価を受けることにより、自分の能力の向上を図ることです。
- STEP 3 就労の場で、教育の重要性を認識することです。
- STEP 4 自分の適職について真剣に考える場をもつことです。
- STEP 5 就労の場での権利と責任をより認識することです。
- STEP 6 自分のキャリアを積み、就職に有利になることです。

【インターンシップを行う上での心構え—10箇条—】

1. インターンシップを実施するに当り、自分なりの明確な目的、目標を立てることが大切です。
2. 受入企業は多忙な中で協力してくれていることを常に認識し、感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。
3. 社会人としてのマナー、エチケットを遵守し、素直な気持ちで仕事に携わることが大切です。
4. いろいろな知識を吸収しようとする真剣さをもって臨みましょう。
5. 職場の人たちと積極的にコミュニケーションを図るよう努めることが、社会での人間関係をよくする上で大切なことです。
6. 自分から積極的に元気良く、誰に対してもあいさつするように心掛けましょう。
7. 知ったかぶりをせずに、分からないことはその場で聞くようにしましょう。
8. 会社での出来事、仕事内容、愚痴は外部に漏らさないことは守秘義務として絶対守らなければなりません。社会人としての常識ですので、心しておきましょう。
9. 外部研修としてのよい機会を無駄にしないためにも、引っ込み思案ではなく、積極的にチャレンジしていくことが大切です。
10. 常に自己啓発を意識し、何事にも好奇心をもって積極的に取り組む姿勢が大切です。

【学生コメントー事例一】

これほど真剣に人生を考えた時期はなかった。自分の将来就く職業を考えるうえで大変に役立った。

内容的に限定されたアルバイトなどと比べて、はるかに充実した得がたい体験であった。

自分の視野が広まった。自分の未熟さや非力さを痛感した。専門的知識や一般的教養など、今後多くのことを学ばなければならないことがわかった。

将来に対する自分なりの展望が持て、学習意欲がわいた。

あこがれていた仕事が、必ずしも自分の求めているものではないことがわかった。

将来就いてみたいと思っていた仕事を体験してみたが、自分の想像とは大きくかけ離れていた。

【企業のコメントー事例一】

いろいろな知識を吸収しようという真剣な姿が社員にも伝わった。

若者らしい反応を素直にしてくれ、若者の考え方を知ることができた。

実習生の指導は指導を行っている若手社員の刺激となっている。新人研修の訓練にもなる。

多少辛い仕事にも積極的にチャレンジする態度に好感が持てた。

周囲を和やかにしてくれた。事務所が明るくなった。